

第2学年 学級活動 学習指導案

令和4年6月27日（月）5校時

3組

31名

指導者 田原 竜太

1 議題 「お楽しみ会の計画を立てよう」 学級活動（1）

2 議題について

(1) これまでの議題や題材について

これまでに、本学級では、下記の議題や題材について学級活動で取り組んできた。

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画	(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全	(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
・ 学級目標を考えよう ・ みんなで遊ぶ日を決めよう ・ 転入生の歓迎会の計画を立てよう ・ 長縄跳びの練習計画を立てよう ・ クラスで飼っている生き物の名前を決めよう ・ お楽しみ会の計画を立てよう	・ 交通安全教室 ・ 教室や校庭での過ごし方	・ 2年生になって ・ 係・当番を決めよう

(2) 本時の議題について

本学級の児童は、2年生になって3か月が経ち、2年生としての学校生活に少しずつ慣れてきている。学級目標である「きまりをまもっていいことフワフワことばいっぱい2年3組」を目標に、よりよい学級づくりを目指している。

本議題は、「みんなで楽しみ会をして、仲良くなりたい」という児童の思いから提案されたものである。自分だけが楽しむのではなく、みんなで楽しみ、仲を深めるためには、どんなことをすればいいかを話し合えるようにする。本学級の実態として、自分の考えを発表することができない児童の姿も見られる。そこで、本時では全員が話し合い活動に参加することができるように、役割を与えたグループ活動で進めていくことにする。また、司会グループの児童の意見も取り入れるために、司会グループも話し合いをする。みんなが楽しむことができるお楽しみ会の計画を立てるために、「何をするか」「どのような準備をするか」を話し合いの柱にして、話し合うようにする。

本時の話し合い活動では、決まった子どもだけの発表にならないように、少人数グループにし、多くの児童が安心して発表できるようにする。また、自分の意見を伝えるだけでなく、互いの意見をしっかり聞いて認め合い、自他の理解につなげることができるようにしたい。本議題を取り上げ、実践することで、活動への意欲や所属感を高め、話し合うことの大切さや楽しさを味わわせることができるようにしたい。また、みんなで心をつなげて取り組む楽しさを体験することで、集団で物事に取り組む楽しさを感じ取ることができるようにしたい。

3 本校の研究テーマとの関連

(1) 研究テーマ「自己を見つめ、他者のよさに気づき、互いに認め励まし高め合う子どもの育成」

(2) 授業の視点

視点イ②交流活動の充実

ア 話し合い活動における対話活動を工夫することで、自分と他者の違いに気づき、他者の姿を受け入れ、他者に関わるようにする。

視点ア③振り返り

ア 話し合い活動における振り返りで「なるほど」の視点に着目することで、他者の学びや他者からの自己の学びにも目を向けるようにする。

4 児童の実態

本学級の実態として、学級の友達に対して思いやりをもって接することができている。友達同士でトラブルになることも少なく、仲良く過ごすことができている。トラブルになった際も、素直に自分の悪かったところを認め、解決することができる。しかし、周囲に流されやすい児童の姿もあり、学校のきまりを守れないときもある。ほとんどの児童が互いに声を掛け合い、きまりを守ることができている。

本学級の児童の実態をつかむために、質問紙法を行い、分析することにした。

(調査人数 31 人 令和 4 年 5 月 16 日)

①	ペアやグループ学習で自分の考えを友達に伝えることができますか。	よくできる 1 2	できる 1 3	あまりできない 6	できない 0
②	話し合い活動は好きですか。	とてもそう思う 1 5	そう思う 1 2	あまりそう 思わない 4	思わない 0
③	みんなで話し合うことは大切だと感じますか。	とてもそう思う 2 3	そう思う 7	あまりそう 思わない 1	思わない 0
④	話し合い活動は生活の中で役に立つと思いますか。	すごく役に立つ 1 7	役に立つ 1 4	あまり役に 立たない 0	役に立たない 0
⑤	話し合い活動で自分の意見を発表できますか。	よくできる 1 4	できる 1 2	あまりできない 5	できない 0
⑥	話し合い活動の時に友達の意見をしっかり聞くことができますか。	よくできる 1 6	できる 1 3	あまりできない 2	できない 0
⑦	クラスのみんなは、話し合い活動で決まったことを取り組んでいますか。	とても取り組ん でいる 1 3	まあまあ取り 組んでいる 1 6	あまり取り組め ていない 1	取り組めて いない 1
⑧	友達のよい意見を聞いて、なるほどと納得したことがありますか。	よくある 1 2	ある 1 7	あまりない 1	ない 1
⑨	話し合い活動をして学級がより良くなったと感じることがありますか。	よくある 1 2	ある 1 3	あまりない 6	ない 0
⑩	話し合い活動をして学級がより良くなったと感じる理由を書いてください。	・ クラスの友達と仲良くなることができた。(10) ・ 学校のきまりを守れるようになった。(9) ・ みんなで毎週遊んで、思い出を作ることができた。(4) ・ 人の話を聞けるようになった。(2)			
⑪	話し合い活動をして学級がより良くならないと感じる理由を書いてください。	・ 話し合いに関係のないことをしている人がいる。(5) ・ 話し合い活動に参加しない人がいる。(2) ・ 話し合い活動中に喧嘩になることがある。(1)			

【考察】

- ・ 質問①②から 8 割の児童が、ペアやグループ活動をすることで、自分の考えを深めることができ、話し合い活動に意欲的に取り組むことができていることが分かる。
- ・ 質問③④から 9 割の児童が話し合うことを大切だと感じており、生活の中で役に立つことを実感していることが分かる。
- ・ 質問⑤から 6 割の児童が自分の考えを発表し、友達に伝えることができることが分かる。残り 4 割の児童は自分の考えを発表することに苦手意識をもっていることが分かる。
- ・ 質問⑥⑦⑧から 9 割の児童が、意見を聞いて納得したり、賛成したりする経験が多いことが分かる。また、クラスで決めたことをほとんどの児童が取り組むことができていることも分かる。
- ・ 質問⑨から多くの児童が、話し合い活動をして学級がより良くなったと感じているが、感じるものがあまりない児童も見られることが分かる。

5 目標

		学びに向かう力・人間性等	思考力、判断力、表現力	知識及び技能
事前	全員	○ 学級をよりよくするために、進んで議題案を見つけようとする。	○ 提案理由や話合いの柱に沿って、自分なりの考えをもつことができる。	○ 本時の議題・提案理由・話合いの柱から、何について話し合うのかを理解することができる。
	計画委	○ 教師の助言を受け、進んで話合い活動の計画を立てようとする。	○ 取り上げなければならない問題の優先順位を考えることができる。	○ 司会団としての自分の役割と話合い活動の進め方を理解することができる。
本時	全員	○ 話合い活動のめあてや話合いの柱を意識しながら、進んで話合い活動に参加しようとする。	○ 順序を考えて自分の意見を言ったり、賛成や同意の意見を言ったりすることができる。	○ 発表の仕方や友達の発表を聞く時の態度など、話合い活動のきまりを理解することができる。
	司会団	○ よりよい話合い活動をするために、司会団で協力して進行をしようとする。	○ みんなの発表を聞きながら、話合い活動の柱に沿って進行することができる。	○ 司会団としての自分の役割と話合いの進め方を理解することができる。
事後	全員	○ 話合い活動で決まったことを進んで実践しようとする。	○ 全員が楽しめることを考えながら、話合い活動に取り組むことができる。	○ 自分や友達のよさや違いを認め合い、みんなで協力して取り組む大切さを理解することができる。

6 指導上の留意点 ※ 授業の視点に沿って、教師の手立てを分類して記述

(1) 視点イ②交流活動の充実において

- ア グループでの役割分担をすることで、全員が話合い活動に参加することができるようにする。
- イ 決まった児童だけの発表にならないように、事前に自分の考えをまとめる時間を設定し、少人数の中で話し合うことで、児童が安心して発表できるようにする。
- ウ 事前に児童が書いた意見を集約し、提示することで、話合い活動の時間を確保し、意見の比較やまとめをしやすくする。
- エ 司会グループの意見も取り入れるために、司会グループも話合いを行う。

(2) 視点ア③振り返りにおいて

- ア 友達のよさを発表することで、互いのよさを認め合うことができるようにする。
- イ 友達から自分のよさを認められることで、自分の考えが大切に扱われていることに気付くことができるようにする。

7 本時の実際

(1) 目標

- ア 話合いの柱を意識しながら、自分の意見だけでなく友達の意見も聞き、積極的に話し合う。【学】
- イ みんなが楽しめるお楽しみ会をするために、どんな会を行えばよいか考え、話し合う。【思・判・表】
- ウ 発表の仕方や聞き方など話合いのきまりや基本的な進め方を理解することができる。【知・技】

(2) 実際

議題	お楽しみ会の計画を立てよう。		
提案理由	みんなが楽しめるお楽しみ会で思い出をつくりたいから。		
めあて	友達の意見を最後までしっかり聞こう。一人一回発表しよう。		
係	司会・副司会	ノート記録	黒板記録
氏名	曲田 恵梨奈・川上 あゆむ	阪口 凜	岡本 隼・轟 桜星
過程	活動の順序	時間	教師の支援 ①交流活動 ②振り返り
問題の意識化	1 はじめの言葉 2 歌「児童会の歌」 3 係の紹介 4 議題の確認 5 提案理由の説明 6 めあての確認 友達の意見を最後までしっかり聞こう。 一人一回発表しよう。 7 先生の話①	7	① 掲示物で会の流れを示すことで、司会グループ以外の児童にも会の見通しをもつことができるようにする。 ① 児童会の歌を歌うことで、学級に一体感をもち、意欲的に話し合うことができるようにする。 ① みんなが楽しめるお楽しみ会の計画を立てるために、学級目標の「きまりを守って、いいことフワフワことばいっぱい2年3組」について話をする。
問題の追究	8 話合い (柱1) 何をするか。 ・しっぽとり (外) ・ドッジボール (外) ・こおりおに (外) ・バナナおに (外) ・ぬりえ (中) ・すごろく (中) ・あやとり (中) ・イスとりゲーム (中) (柱2) どんな準備をするか。 ・走るのが苦手な人はしっぽを2本つける。 ・盾をつくる。 ・走るのが苦手な人は2回タッチされたら固まる。 ・自分たちで描いた絵をぬりえにする。 ・すごろくをグループごとにつくる。	15 / 15	① 司会グループの児童の意見も取り入れるために、司会グループも話合うようにする。 ① 児童の意見を事前に貼ることで、意見を比較したり、まとめたりすることができるようにする。 ① グループ活動にすることで、安心して発表できるようにする。 ① グループでの役割分担をすることで全員が話合い活動に参加できるようにする。
実践への意欲化	9 決まったことの発表 10 話合いの振り返り 11 先生の話② 12 終わりの言葉	8	② 友達のよさを発表することで、互いのよさを認め合うことができるようにする。 ② 話合い活動のよいところを称賛することで、実践への意欲を高める。

(3) 評価

ア 話合いの柱を意識しながら、自分の意見だけでなく友達の意見も聞き、積極的に話し合うことができたか。

【学びに向かう力、人間性等】

イ みんなが楽しめるお楽しみ会をするために、どんな会を行えばよいか考え、話し合えたか。

【思考力、判断力、表現力】

ウ 発表の仕方や聞くときの態度など、話合いのきまりや基本的な進め方を理解することができたか。

【知識及び技能】

(4) 板書計画

だ い 六 かい 学 び 学 ぶ 会

おたのしみ会のけいかく
を立てよう。

ていあんりゆう

みんながたのしめるおた
のしみ会で思い出をつく
りたいから。

はなしあいのめあて

一人一かいはっぴようしよう。
ともだちのいけんをさいごい
まできこう。

はしう①

なにをすすめるか。

だしあう

くらべあう

まとめる

はしう②

① イスとりゲーム
どんなじゅんびがひつようか。

② しっぽを二本つける。

③ たてをつくる。

④ ニかいタッチされたらかたまる。

⑤ じぶんがかいた絵をぬる。

⑥ すごろくをグループごとにつくる。

きまったことのたしかめ

①

②